



5周年をむかえて

いたばし水と緑の会会長 鈴木 信子

ここ10年の間、地球環境に関心を寄せる人は確実に倍増していると思います。天候異変をはじめ、あらゆる環境破壊の事象が身近に起き、その不気味な足音におびえるようになったからです。

人間も動物の一種類ですから、まだ第六感はそれほど鈍化していないのでしょうか。

先日テレビを見ていたら、小泉首相が「少なくとも各省庁は民間に先んじて低公害車を導入しなければならない。各閣僚は率先垂範するように」と話しておられました。環境省がまだ省に昇格していない時でしたが、低公害車の所有台数は確か2台しかなく、その頃板橋区は低公害車専用のメタノールスタンドの設置に取り組んでいて、所有する低公害車は二ケタだったと記憶しています。

「百年河清を待つ」では、私たちの世代には何とも歯がゆい思いがいたします。

町の有志が、環境保全課の職員の方々とマイクロバスで白子川の源流から調査したのは平成元年6月のことでしたが、井頭公園からの湧水の流れにはクレソンが群生していましたが、保谷から暗きょを通して生下水が流れ込んできたところから、とたんに東京でも有数の汚れた川になり、白濁した川ときれいな湧水との二条の流れの中を、セグロセキレイがきれいな流れだけを選ぶように渡っていたのが刺激的な印象を受けました。

湧という字は、水が勇むと書きますが、まさに水が勢いよく流れ、その供給源である森が豊かであってほしいと思いますが、それは都市住民のぜいたくな望みなのでしょうか。

水と緑の会もそんな未来に向けて発展していくように念じています。

週休2日制になった子供たちに、人間として生きていく上で大切な環境問題を、現実的な視点から伝えていくことができたらと思います。

健康上の理由で、会の参加も思うにまかせないことをお詫び申し上げます。

第6回の総会に向けて、ひとことご挨拶申し上げます。

14年度総会は、楽しく盛り上がりました

4月27日、総会の日、午前中は赤塚公園の観察会を行ないました。ザリガニ取りの籠を仕掛けて、出発しました。新しいメンバー、家族4人で参加の人も交えて、ゴミ袋をもってごみを拾いながら新緑の赤塚公園のコースを観察しました。



竹のゴミばさみをもって

その赤塚5丁目集会所で総会が開かれ、13年度の活動報告、会計報告が承認され、その後本年度の活動について、活発に議論されました。以下の意見や提案等が出され、方向が承認されました。

(赤塚について)

- * バッタ広場の柵が壊れていたり、犬の糞がころがっている。草原も池も自然のままにしておくところはそのままにし、人間の出したごみなどの掃除や柵の修理は間を空けずに実施する(活動の時は、旗を立てて腕章をする。責任の所在を明確にするためと、会のPRの為)。
- * バッタ広場の植物が茂ったらどうするのか、という意見がでました。会としては期間を5年位に限定し手を加えずに草原の変化を観察するだけとし、その後の方向は公園協会と相談するようにしたい。
- * 水と緑の会が何をさせてもらえるのか、はっきりしていないところもあるので、公園協会と話し合ったほうが良い。
- * 自然池についてはカルガモも人の気配で飛び立った。安心して来られるようにもっとヤブが必要と訴えてはどうか。
- * 自然池、バッタ広場は家族連れの自然教育の場所となっている。ボランティア活動の実績をつくり、ボランティアのパワーを示すとともに、楽しい活動で会員数を増やす(区と共催でバッタ広場の観察会をする)。
- * 自然池の掃除とザリガニとり班を編成し、定期的に頻繁に実施する。
- * 区と共催で子供達に参加できるザリガニとりをする(自然池の趣旨を説明する)。

(荒川について)

- * 荒川については、昨年ほとんど何も出来なかった(鳴く虫観察会のみ)。
- * 生物生態園は、立ち入り禁止になっているのに、観察デッキがあり、趣旨がわからない。

(自然発見ウォーキングについて)

- * 植物グループ、虫グループ等に分かれ、ガイドツアーにする。コースも広げる。ウォーキングの後、参加者と意見交換をする(区と共催にする)。
- * そのための勉強会を兼ねた観察会を実施する。

(昆虫調査について)

- * 赤塚公園の昆虫調査を1年かけて実施する(釣巻)

(合宿について)

- * 合宿は乗鞍で夏頃やりたい。

定期活動日を第4土曜日とし、午前中観察会とごみ拾い、観察会で気づいたことは(柵を直すなど)残った時間で修理します。同じコースでも季節の変化を追いながら楽しめます。皆さんのご参加をお待ちしています。新しい試みも多くなり、相応の段取り、準備が必要となります。

会長の差し入れのビールで盛り上がり?たくさんの決定があり、実施していくにはがんばらなくてはならないようです。会員の皆様の協力をお願い致します(瀬田 政江)。

平成13年度会計報告

収入の部		支出の部	
繰り越し	260,175	通信費計	72,336
会費(72人)	144,000	会場使用料	4,350
寄付	5,000	消耗品費	6,539
雑収入	240	備品費	42,294
利息	71	保険料	8,840
収入計	409,486	その他	31,918
		支出計	166,277

13年度の特別支出は備品費の草原ピオトープの説明看板代 37,800円、その他の項目ではモグラはく製費(城址でひろったモグラの死骸をはく製にしました)18,000円、講師謝礼などです。14年度への繰越金は166,277円です。

真田さん特製のザリガニ取り装置が威力を発揮

目黒自然教育園の観察会は有意義でした(そのあと立ち寄ったエビスビールがとくによかったとか)。講師の萩原先生に、ザリガニのことを質問したら、良い環境になったらザリガニはどんどん増えるのだそうです。根絶はできないが、せっせ取り続けるように言われました。早速5月13日実行。401匹捕獲。四ツ手網は真田さんの手縫いです。えさ入れのチャック付き。



赤塚自然池に必要なのは、小さな生き物の「かくれ場所」



左の写真は、池の中からみたところ。広場から見ると草ぼうぼうだと言われますが、緑の縁は狭い。生き物にとっては人間社会と自然を隔てる緑のカーテンはもっと豊かにうっそうとしてほしいところです。人通りの多い広場に面した池では、コサギもおちおちザリガニを食べていられないでしょう。

草地の手前は、昨年夏、土を入れてつくった湿地。ここに昨夏、

荒川の水草を植えましたが、やわらかい植物はすぐになくなってしまいました。そして、今年の春、雨が少なく干上がり、絶好の発芽チャンスが到来しました。セリの芽が池に向かって伸び、植物の種が発芽していました。しかし、しかし、土が顔を出したとたん、皆が入って踏まれて、新芽は圧死してしまいました。泥を大切に。

下の写真は、水際に入れたソダ。水草が育たない池では、この枝の束を小さな生き物が身を隠す水草の茂みのかわりにならないかというわけです。



人間から見て雑草・泥・枯れ枝は、汚いかもしれませんが。しかし生き物にとって、草むら・泥・枯れ枝は大切な環境です。

まず、私たちが自然の場所だという認識で維持していくうちに、公園に来られた人たちにとっても、都会のなかの自然を受け入れ、認知していくようになるでしょう。ものさし

は「自然」「小さな生き物の環境」。草ぼうぼうも、泥も枯れ枝も、小さな生き物が住みやすいかという「ものさし」で見ると、子供達にザリガニを取らせてあげても、私達が「ものさし」をしっかりとっていないと、単なるザリガニ池になってしまいます。

ビオトープは、あくまでも板橋区役所が自然の場所と位置付け、みんなで整備したところです。だから、ものさしは「人間から見たきれいさ」でなく、「地域に昔からあった自然」であるべきです。反自然物である空き缶、ポリ袋などのゴミはまず取り除くことを第一とし、自然の場所としてのPRが肝心と思います。

三島次郎先生の講座「自然って何？」

三島次郎先生の「自然って何」ーエコロジーへの招待ー（自然回復ボランティア活動講座）は刺激に満ちた講座でした。エコロジーという言葉は、環境にやさしいというような美しいことばとして理解されていますが、生態学・・・いろいろな生き物（バクテリアなど土壌にいるすごい数量の見えない生き物も含む）や外界（大気や無機物etc）との関わり合いの学問で、地球環境はこういった関係でできている。さて、のっけから、アメリカの国立公園イエローストーンで山火事が発生したとき、山火事も自然の一部という理由で、消火活動を許さず、東京都と神奈川県をあわせた40万ヘクタールという広大な森林を燃えるに任せたという、アメリカの自然保護の方針を紹介され、度肝をぬかれました。徹底した人間関与の否定です。山火事によって種が弾けて初めて芽が出る植物にとっては山火事も必要な現象です。公園内では、熊に襲われても知りませんよとクギを刺される。熊の危険性のPRはするが、人間の安全のために熊を捕獲することはない。つまり自然の場所では、自然が優先するということ。

さまざまな地球環境問題は、自然に反する人間活動から生じた問題であり、まず自然についての正しい認識を持つ必要があると思います。こういうことに対する欧米の人たちの論理性はすごい（日本ではこうはいかない。原則と現場は別だし、最後は原則がどこかへ行ってしまう。私だって3分の1位でいいんじゃないかと言いかねない。私たちのご先祖様は、自然の懐に抱かれ、論理ではなく、上手に保全と利用のバランスをとってきたと言われていますが、今の私たちは、ご先祖様がもっていた自然への畏敬の念はもはやなく、ただ「適当に」という方法だけが残り、そして破壊力の強い文明にどっぷり漬かっている状態ではないでしょうか）。

自然の法則は、山奥でも都会でも同じはずですが、自然のほとんどない都会で、自然についての考え方や方針を議論するのは大切なことだと思います。自然を守るということは、人間が余計なことをしないこと、私たちの価値観をもういちど見直すこと、都市の中の自然の大切さを訴

えていくことが重要なテーマだと思いました。そして、どんな楽しみ方ができるか、です。

講座の中で、価値観については、例えば、自然界は様々な動植物(ほとんどはありふれた種)の関係から成り立っているのに、カタバミのようにどこにでもある草(よく見ると美しい)がどこにでもあるという理由で、引っこ抜かれ、希少種が大事にされるのはどう思いますか、等々いろいろな例をあげて私たちの常識をゆさぶられました。

フィールドワークでは樹木の経済効果を測定

赤塚公園の1回目のフィールドワークでは、1本の木が私たちの生活にどれほど貢献しているかを理屈で迫る、電卓必携の実習です。

私のグループでは、5m×5mの場所にあった4本の木を対象に測定しました。最大は幹まわりが138cmのエノキ、最小は幹まわり25cmのシラカシです。葉の面積の合計を出して、植物が炭酸同化作用で吸収してくれる二酸化炭素の量を計算します。そしてそれが私たちの呼吸や生活でエネルギーを使うことによって排出する二酸化炭素をどの位を吸収してくれるかを計算します。私たちが調べた4本の木は、人の呼吸量として10人分、またはガソリン1583リットル(19574km走行分)に相当しました。また木は蒸散するとき熱を奪い、涼しくしてくれるのですが、この効果はクーラー31台に相当します。自動車やクーラーの廃熱で、夜も寝苦しいヒートアイランド現象が問題になっていますが、木はエネルギーのいらない天然のエアコンです。

以上の計算は葉が自然に茂った状態での数値で、刈り込んだ木ではだめだそうです。坊主に刈り込まれた木の下ではやはり涼しくないですね。

久しぶりの算数でモタモタしましたが(計算合っているかな?)、自然の恩恵を再認識しました。こんな実習もいいですね。(坂本 郁子)

ヘビトンボに感激!

5月13日、水路の清掃中に森さんが発見。カワナナもかなり生息しているようです。もう少しいい環境にしたいものですね。



2002年5月15日

みずみどり第30号

活動のお知らせ

問合せは：瀬田まで（3969）7124

運営委員会は毎月第1金曜日です。興味のある方はぜひご参加ください。

6月運営委員会 6月7日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

7月運営委員会 7月5日(金)18:30~20:30 エコポリスセンター

会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく

日時：7月15日(月)17:30~ 場所：エコポリスセンター

毎月第4土曜日を定例の活動日とします。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に自然観察とゴミ拾い、その後必要な修理等の管理を行います。

徳丸が原公園の自然池観察会と修理

池の状況、植物、生物（トンボのヤゴがいるかなど）を調査します。

日時：5月25日（土）10:00~12:00

場所：徳丸が原公園池（池は高島第1小学校の向かい側）

持ち物：長靴、網、図鑑、ルーペなど

赤塚公園自然観察&クリーンウォーク

赤塚自然発見ウォークのコースを自然ウォッチングとゴミ拾いをします。

日時：6月22日（土）10:00~12:00

場所：美術館前集合

内容：城址周辺の観察とゴミ拾い、気がついたところの補修

その他：お天気がよければお昼を一緒に食べましょう。観察会は雨天でも実施します。

ザリガニ作戦

自然池を守るためのザリガニ取りを子供達にも手伝ってもらいます。広報いたばしに募集記事を出します。水際を守ること、ザリガニを育てることなども勉強してもらいます。

日時：6月6日（土）10:00~12:00

場所：美術館前の池

自然池管理班募集

自然池にザリガニが繁殖する時期です。集中して捕獲します。お手伝いくださる方はご連絡ください(平日)。

希望者は事務局にご連絡ください

- ・ 秋のウォーキングの準備チーム
- ・ 植物調査班（勉強しながらやりませんか）
- ・ 昆虫調査

14年度会費未納の方はよろしく 会費は2000円です。カンパ大歓迎。